

史

記

七

(世家下)

新觀漢文大系

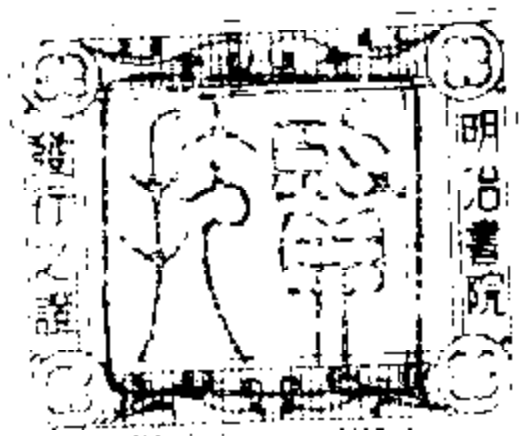
新釈漢文大系 87

明治書院

史記 七 (世家下) 吉田賢抗著

定価 5,300円

昭和57年2月10日 初版発行
昭和60年5月1日 5版発行



新釈漢文大系
第 87 卷
史記七 (世家下)

著者	よし だ けん こう 吉 田 賢 抗
発行者	三 樹 彰
印刷者	田 中 忠
発行所	株式会社 明 治 書 院

東京都千代田区神田錦町1-16
郵便番号 101
電話 東京 (292) 3741(代)
振替口座 東京 3-4991 番

例言

- 一、例言の詳細は、「史記一（本紀上）」に収めたので、ここでは本書に關した必須の事項のみを略叙した。
- 一、本書は、史記十二冊中の「史記七（世家下）」である。
- 一、本書は、本大系の執筆要旨で項目を設けたが、校異は語釈の部に入れ、すべて簡要を旨とした。
- 一、原文を数節又は数十節に切って、番号を付したのは、参照の便と、長文を扱い易くせんがためである。
- 一、通釈は意識を避け、平易な直訳を旨としたのは、原文を読み、通釈を併読することによって、直ちに本旨を了解し、名文史記原典の妙味の鑑賞に便せんがためである。
- 一、本書は、瀧川亀太郎博士著の「史記会注考証」を底本とし、その底本となった同治九年張文虎刊「金陵書局本」及び同治十一年張文虎校刊「史記集解索隱正義札記」と、明治十六年刊有井範平の「補標史記評林」・上海圖書集成印書局校印の乾隆十二年版勅校刻二十一史の「欽定史記」・一九五九年七月中華書局刊の「史記」・水沢利忠博士著「史記会注考証校補」などを併せて校訂した。訳出に参考した主なるものは、瀧川氏の「会注考証」を主とし、梁玉繩の「史記志疑」、岡白駒の「史記觸」、中井履軒の「史記彫題」、池田四郎

次郎の「史記補注」など先人の業績を従とし、菊地三九郎氏の「史記国字解」、公田連太郎氏の「国訳史記」、平凡社版の「史記」（野口定男氏代表共訳）、筑摩書房版の「史記」（小竹文夫・武夫氏共訳）の現代語訳を参照した。書中の引用には、姓氏や書名のみを略記したのは、簡略を主旨としたためである。ここで改めて多くの先達の鴻業に敬意を捧げ、厚く謝意を表する次第である。

一、原文で増補又は削除を必要とした場合は、本文と書き下し文に、削除は（ ）を、挿入は〔 〕を付け、語釈でその説明をした。

一、地名は、中華民國五十六年九月臺初版、文海出版社印行の劉君任著「中国地名大辞典」・龍門書店印行の錢穆著「史記地名考」を参照した。

一、「史記七（世家下）」の巻末に、世家全文の索引を付して検索に便した。

一、本書の出版については、原稿の整理、校正など、明治書院の社長三樹達生氏はじめ、藪上信吾氏ら社員諸氏の労に負うところが多い。ここに記して深甚の謝意を表する。

昭和五十六年十一月

吉田賢抗

史記（世家下） 目次

孔子世家第十七……………七九七

陳涉世家第十八……………八九〇

外戚世家第十九……………九一七

楚元王世家第二十……………九五五

荆燕世家第二十一……………九六三

齊悼惠王世家第二十二……………九七三

蕭相國世家第二十三……………一〇〇三

曹相國世家第二十四……………一〇一〇

留侯世家第二十五……………一〇三九

陳丞相世家第二十六	1043
絳侯周勃世家第二十七	1103
梁孝王世家第二十八	1137
五宗世家第二十九	1153
三王世家第三十	1174
戰国七雄時代略図	1111
世家索引	1113

史記 七 (世家下)

孔子世家第十七

史記卷四十七

解説

太史公いう——周室の威徳が衰えると、諸侯はその行いをほしのままにした。孔子は礼道が廃(た)れ、音楽が崩れたのに心をいため、退いて経術を修め、これによって王道の実現を達成しようとした。乱世を匡(た)して、これを正道に反し、文辞をあらわして、天下のために儀法を制定し、六芸(六経)の大本綱紀を後世に垂れ遺した。そこで、孔子世家第十七を作った。(太史公自序第七十)

張守節いう——孔子が諸侯でなくて世家と称したのは、太史公が思うに——孔子は布衣であつたが、子思以来哲人が出て、天子諸侯学者から、中国で六芸を言う者は夫子を宗とした。至聖と謂うべきである——と。故に世家と称した。(正義)

孔子生魯昌平郷陬邑。其先宋人也。曰防叔。防叔生伯夏。伯夏生叔梁紇。紇與顔氏女野合、而生孔子。禱于尼丘、得孔子。魯襄公二十二年、而孔子生。生而首上圩頂。故因名曰丘云。字仲尼、姓孔氏。

通釈

孔子は山東魯の国昌平郷の陬邑に生まれた。その先祖は宋の人で、孔防叔といった。孔防叔が伯夏を生み、伯夏が叔梁紇を生んだ。紇は顔氏の女と略礼で結婚して、孔子を生んだ。尼山に祈って孔子を授かり得た。魯の襄公二十二(二)年の歳に孔子は生まれたのである。生まれてみると、頭の頂きがくぼんで、尼山に似ていたので、丘と名づけられたというのである。字は仲尼、姓は孔氏である。

孔子は、魯の昌平郷の陬邑に生る。其の先は宋人なり。孔防叔と曰ふ。防叔、伯夏を生む。伯夏、叔梁紇を生む。紇、顔氏の女と野合して、孔子を生む。尼丘に禱り、孔子を得たり。魯の襄公二十二年にして、孔子生る。生れて首上圩頂なり。故に因つて名づけて丘と曰ふと云ふ。字は仲尼、姓は孔氏。

語釈

○昌平郷陬邑 今の山東曲阜県の東南の邾（邾城）（考証）。徐広曰く、「邾は音、騶（慣用音は・漢音し）」。孔安国曰く、「邾は、孔子の父、叔梁紇の治むるところの邑」（集解）と。論語にも「鄆人の子」（八佾）とある。孔子の父は邾の村長か。司馬貞は括地志を引いていう、「兗州曲阜県の魯城の西南三里に闕里有り。中に孔子の宅有り。宅中に廟有り、と。孔子の生るるや鄆に在り。長じて曲阜に徙る。仍て闕里と号す」（正義）と。しかし、闕里は、孔子家語の「孔子始教於闕里」（弟子解）に出たものとすれば、今の家語が王肅の偽作であるから、閻若璩の「闕里の名無し」の論も出る理由がある（考証参照）。○先宋人 孔子は宋の微子啓の後という。左伝（昭七年疏）によると、宋の閔公の子の弗父何の後裔が五代して、別れて公族となり、孔氏を姓とした。孔防叔が華氏の逼るを畏れて魯に奔った。故に孔子は魯人という（索隠・考証参照）。○叔梁紇 紇は防叔の孫、伯夏の子という史記のこの記事は、家語の本姓解と同じであるが、今の家語が後世の偽作とすれば、逆に史記に拠って書いたかもしれない。瀧川氏は、「邾叔以前、春秋伝に見ゆる者は、僅かに弗父何、正考父、孔父嘉の三世のみ。史記世家に見ゆる者は、僅かに防・夏の二世のみ、この外、家語本姓解に記するところは、皆伝記に見えず。史記の言、余は猶あへて盡くは信ぜず。況んや史記の言はざるところのものをや」（考証）というように、孔子の祖先の系統は明らかとはいえない。瀧川氏は、崔述曰くとして、「邾は魯の邑、叔はその字、紇はその名」と記した（考証）。又左伝に、「秋、齊侯が我が北鄙を伐ち、桃を囲む。高厚、臧紇を防に囲む。師、陽関より臧孫を逆へんとして旅松に至る。邾叔紇・臧賈・臧賈、甲三百を帥ゐて、宵に齊師を犯し、これを送りて復る」（襄十七年）の注に、邾叔紇は叔梁紇とある。故になかなかの武人であったともみえる。○野合 礼儀を簡略にして結婚すること。岡白駒が、索隠の、「礼義に合はずと為す」、正義の、「期に過ぎると為す」、などを否定して、「愚案するに、此は礼を行ふと雖も、悉くは其の礼を備へざる、是れ野なり」（史記綱）の説に従う。司馬貞は、「蓋し梁紇老いて、徴在少なり。壯室初笄（十五歳）の礼に当るに非ず。故に野合と云ふ」（索隠）という。梁玉繩は、「古は婚礼頗る重し。一礼未だ備はらざる、これを奔と謂ひ、これを野合と謂ふ」（志疑）と、説明した。家語によると、孔紇は魯の施氏に娶りて女九人を生み、男無く、其の妾が孟皮を生んだ。孟皮は一字（字）は伯尼。足の病があった。そこで顔氏に婚を求めた。顔氏に三女があつて、その小を徴在という。二女は答えがなかった。徴在だけが、「父の制するところに従はん」と答えて、結婚となった（本姓解）とある。家語は何に本づいて記録したかは知る由もないが、孔子の母の名が初めて見える。孟皮は兄らしいが、論語に、「孔子、其の兄の子を以て之に妻（め）はす」と、二回（公治長・先進）出ている。○禱于尼丘 尼丘山に男子が生まれるように祈った。尼丘山は兗州鄒県に在りという。○襄公二十二年 公羊伝は、「襄公二十一年十有一月庚子孔子生」に作る。二十二年とするのは、「周正十一月を以て明年に属するが故」（索隠）という。穀梁伝は、「二十一年庚子、孔子十月の後に生まる」と、その文字に僅差があり、論議が絶えない。今は多く公羊伝説をとる賈逵・服虔らに従つて、

二十一年（前五三）誕生とする。詳しくは会注考証参照。○首上圩頂 頭の頂上は、中央がくぼんで、四方が高かった。崔述は、この説は孔子の名の字に因って付会したもので、信ずるに足らないという（洙泗考信録参照）。○曰く云くということである。瀧川氏は「未必之辞」と注し、「史公も未だ必ずしも之を信ぜず、しばらく伝ふるところを記するのみ」と説明している。○丘・仲尼 尼丘の山名を分け、名を丘とし、二男の仲と尼を合わせて字（なづ）としたともいう。

余説 本節は孔子の伝記の書き出しだから、後世の付会によるところもあり、諸種の研究があつて、語釈を書き出すと限りがない。本大系刊行の目的の趣旨によつて、簡易を旨とした。更に詳細を要する場合は、史記会注考証や、その中に引用した諸書などを参照されたい。

2 丘生而叔梁紇死。葬于防山。防山在魯

東。由是孔子疑其父墓處。母諱之也。

孔子爲兒嬉戲、常陳俎豆、設禮容。

孔子母死、乃殯五父之衢。蓋其慎也。

邠人輓父之母、誨孔子父墓。然後往合

葬於防焉。

通釈 丘が生まれてから叔梁紇が死んだ。山東の防山に葬られた。防山は魯の東に在った。そのため孔子は父の墓所を知らないで、どこに墓があるかを疑った。（母が墓を知らせなかったのは）母が礼を略して結婚したことを諱んだからである。

孔子が児童であつたころ、遊戯するのに、いつも祭器の俎豆を並べたり、礼儀にかなった容装をした。

孔子の母が亡くなった。そこで、魯城内の五父の巷（ちまた）でかりもがりした。思うに、後日に父の墓所への合葬のことを考えて、慎んで行ったことだろう。邠の葬車を挽く人の母が、孔子に父の墓所をおしえたので、孔子はそこへ往つて、母を防山に合葬したのである。

語釈 ○叔梁紇死 家語には、「孔子三歳にして叔梁紇死す」（本姓解）とある。その年齢については、張守節は、六十四を過ぎ（正義）て結婚したとするから、思うに六十七、八歳か。○防山 兗州曲阜県の東二十五里（正義）という。○疑 知らなかった。どこに在るか

を疑っていた。三歳では知らなかったことだろう。家語には、「孔子少孤、不知其墓」(本姓解)に作る。○母諱之 孔子の母は笄年(十五歳)で紇に娶ぎ、いくばくもなくして紇が死んで、年若い寡婦になったから、これを嫌い諱んだ、と解する。司馬貞は、徵在は年少で寡婦となったのを嫌って、送葬に従わなかったから、墳処を知らなかったのだ、と解する。○嬉戯 遊戯する。あそびたわむれる。○陳俎豆 俎や豆の祭器を並べる。俎はマナイタ。犠牲を載せる台。豆はタカツキ。古は肉類(後には穀類など)を盛る木製の祭器。上部に蓋、中部が盛る場所、下部が台。高さ一尺二寸(周尺)という。論語にも俎豆之事(衛靈公)とある。○設礼容 礼儀正しい顔をして、かたちをととのえる。○母死 母の徵在が亡くなった。時に孔子は二十四歳か。家語の王注、「孔子の母の死は、紀年二十四歳に在り」(本姓解)を参考して。○五父之衢 五父は街(じ)の名。衢は、八方に通じる道路があるまちかど。辻・巷の意。○殯・慎 「殯」はカリモガリ。仮に棺におさめて、賓客のごとく安置して祭ること。葬礼の前にする。「慎」は通説に、謹慎・慎重と解する。礼記の注によると、慎は「引なり」で、葬引・殯引の引とし、棺を引く綱と解する。礼記には、「其慎也蓋殯也」(檀弓上)——その棺柩の車を引く飾り綱が、思うに殯引であった——とある。これによると、母の棺を飾る綱が葬引でなくて殯引であった。孔子は父の墓所を知らないから、母の棺柩を飾る引き綱は殯引にして殯所へ就け、葬引にしなかったというように解する。父の墓所を知ってから、後文にあるように、葬引で防山に合葬したことになる。史記の文と、礼記とは少し異なっている。ただ、太史公は、孔子の慎重さを含めて、「蓋其慎也」と書いて、殯引の意をも含めたかも知れない。通釈はその意味に従った。○輓父之母 葬車を挽く人の母。礼記は、耶曼父の母とし、その注では、徵在の隣人で、仲が善かった者とある。孔子の母が仲よくした善い隣人の老母。従って孔子の父の葬式の時のいきさつを知っているだろう。○誨 言ってきかせる。母の徵在が、孔子三歳の時に死んで、どういような気持で、どんな葬礼を行い、墓所をどうしたかを話してきかせた。——これについては異説がある。孔子が母が死んだ時になっても、父の墓所を知らなかったのは謬説も甚だしいとして史記を非議したり、礼記・家語の文も虚造の謗言だとするものもある(考証・家語の注など参照)。

3 孔子要經。季氏饗士、孔子與往。陽虎
絀曰、季氏饗士、非敢饗子也。孔子由
是退。

孔子、要經す。季氏、士を饗し、孔子、與り往く。陽虎絀けて
曰く、「季氏、士を饗す。敢て子を饗するに非ざるなり」と。
孔子、是に由りて退く。

通釈 孔子は喪に服して、腰に麻布の帯をしていた。魯の大夫の季氏が士人を饗応した。孔子もそれに招待されて往った。季氏の家臣の陽虎が孔子をしりぞけて言った。「季氏は士を饗応しているのである。おまえのような者を饗応するのでは

ない」と。孔子はそれで引きさがって帰った。

語釈 ○要經 腰に麻の布で作った帯をして、喪に服していること。腰經とも作り、紳（おび）の代わりに腰に巻くこと。儀礼に、「麻在首、在腰。皆曰經。象大帶也」（喪服）とある。また礼記に、「孔子の喪には、二三子皆經して出づ」（檀弓上）とあるのを見ると、孔子の死後、弟子たちが外出にも經して、先生に哀戚を表したらしい。その他礼記には「經」を用いた喪服の場合が随分記載されている。従って、この「要經」を、「腰に經書おびて——」という訳（一説）には従わない。○陽虎 季氏の家臣。字は貨か。貨が名で、虎が字か。又、別人かともいう。別人としたい。季平子に仕えて政を専らにし、公族の三桓（季孫氏・孟孫氏・叔孫氏）を伐とうとして失敗し、齊に出奔し、また晋に奔った。○紂 黜と通ず。退く。○季氏 魯の大夫。三桓中の最大の権威者である。三桓は桓公から出た孟孫・叔孫・季孫の三氏で、魯の大夫として、主君を凌いで政を専にした。○饗士 士人を饗応した。饗は饌。魯の文学の士に飲食せしめた（正義）というのは従えない。○子 おまえ。見下げた呼び方。「士」と「子」は対応させた扱い方か。孔子を年少者として陽虎が退けた（正義）と解するのは、次句の「孔子年十七」にかけて読んだからであるが、果たして正しいか。陽虎と陽貨を同一人とする、論語（陽貨）や孟子（滕文公下）にある話から推せば、孔子と陽虎は理解し合えない間柄のようである。

余説 この一節は問題がある。前句の「合葬於防」に続けて「孔子要經」を扱い、季氏の「饗士」に関連させ、「孔子年十七」と結ぶと、孔子の母の死が、孔子十七歳になって、前後の筋が通らない。梁氏のいうように、昭公二十七年に陽虎の名が始めて左伝に見えるのに、孔子の年十七は昭公十七年か十六年に当たるから（志疑）おかしい。崔述が、喪に居る者が飲食の饗招に出向くのか（考証）と疑うのも肯ける。方苞の、季氏が士卒を饗したのは、之を用いんがためだ。古は既に葬れば、金革の事で召されれば士は避けられない（考証）と解するのも理がある——など、読解に苦しむ。試みに、「孔子要經」は必ずしも「合葬於防」にかけて読まない。「孔子年十七」の次節に続けて読み、この一節を単独に扱ってみたら、疑問点は少なくなるのではなからうか。

孔子年十七。魯大夫孟釐子病且死、誠其嗣懿子曰、孔丘聖人之後、滅於宋。其祖弗父何始有宋而嗣、讓厲公。及正考父、佐戴武宣公、三命茲益恭。故鼎

孔子年十七なり。魯の大夫孟釐子病み、且に死せんとするとき、其の嗣懿子を誠めて曰く、「孔丘は聖人の後なり。宋に滅べり。其の祖弗父何、始め宋を有ちて嗣ぐべきを、厲公に讓れり。正考父に及びて、戴・武・宣公を佐け、三命せられて茲益々

銘云、一命而偃、再命而偃、三命而俯、
循牆而走、亦莫敢余侮。饘於是、粥於
是、以餬余口。其恭如是。吾聞、聖人
之後、雖不當世、必有達者。今孔丘年
少好禮。其達者歟。吾即沒、若必師之。
及釐子卒、懿子與魯人南宮敬叔往學禮
焉。是歲季武子卒、平子代立。

通釈

孔子は十七〔八〕歳であつた。魯の大夫の孟釐子が病氣にかかつて死にそうになつた。嗣子である懿子を誡めて言つた。孔丘は聖人（正考父）の後裔である。その家系は宋では滅んで（魯に移つて）しまつた。その祖先の弗父何は、はじめ宋國を領有して位を嗣ぐべきであつたのに、弟の厲公に譲つた。曾孫の正考父の代になつて、宋の戴公・武公・宣公を輔佐して、一命、二命、三命と、位の高くなるごとに、ますます恭しい態度になつた。それ故、考父の廟にある鼎の銘に、「士を命ぜられて恭しく背をかがめ、大夫を命ぜられて、それ以上恭しく背をかがめ、卿を命ぜられては、より恭しく頭を垂れた。路傍の牆にそつて足ばやに歩いて、あえてわしを侮るものはなかつた。この鼎で粥を煮てわが口を養い、だんだん薄い粥にしてやつと餬口をうるおした」と、刻んである。その恭敬さはこのようであつた。わしは、「聖人の後裔には、その世代に高位につかなくても、必ず事理に達した哲人が出る」と聞いている。いま、孔子は年少ではあるが礼を好み学んでいる。おそらく達人となろう。わしがもし死んだら、おまえは必ず彼に師事しなさい」と。

孟釐子が没する（左伝では昭公二十四年）と、懿子は弟の南宮敬叔とともに、孔子のところへ行つて礼を学んだ。この年に、公卿の季武子が没して、その子の平子が代わつて立つた。

恭し。故に鼎の銘に云ふ、『一命せられて偃し、再命せられて偃し、三命せられて俯し、牆に循ひて走る、亦敢て余を侮るもの莫からん。是に饘し、是に粥し、以て余が口を餬せん』と。其の恭しきことは是の如くなりき。吾聞く、『聖人の後は、世に當らずと雖も、必ず達者有り』と。今、孔丘は年少けれども禮を好む。其れ達者ならんか。吾即し沒せば、若必ず之を師とせよ』と。
釐子卒するに及びて、懿子、（魯人）南宮敬叔と與に往きて禮を學ぶ。是の歳、季武子卒し、平子代りて立つ。

語釈

○孟釐子 孟僖子と同じ（名は釐る）。左伝に、「孟僖子、礼を相たくる能はざりしを病み、乃ちこれ（礼）を講学す。苟も礼を能くする者にはこれに従ふ」（昭七年）とある。これによると、この「病」は病氣の意ではなく、礼を以て魯公を輔けなかったことをなやんだことになる。しかし通釈は、通説に従って病むとした。○且死 死にそうになったとき。左伝には、「及其將死也、召其大夫曰、以定其位」（昭七年）に作る。孔子十七歳は昭公七年で、この年には懿子も南宮敬叔もまだ生まれていない。孔子も十七歳では師たるの年齢でない。左伝昭公二十四年の経文に、「仲孫纘卒」とあるのと照合すると僖子の卒年は合わない。太史公は左伝の文の錯雜したまま史記に書いたものか、後世の衍文かは明らかでない（索隱・考証・左氏会箋など参照）。家語はこの錯雜がなく、孟僖子が大夫に遺言したように、孟懿子と敬叔は孔子に師事する。時に孔子は三十四、五歳。○嗣懿子 後嗣ぎで名は何忌。左伝に、「泉丘の人の女が僖子と婚して、懿子と南宮敬叔を生む」（昭十一年）とある。孔子の十七歳は昭公七年だから、この二人はまだ生まれていない。従って「且死」以下は年代的に合わない。論語には、「孟懿子問孝。子曰、無違」（為政）と一回だけ出ている。○聖人 明知の人（左氏会箋）。後世でいう聖人とは若干意味がちがう。○滅於宋 宋ではその祭祀が絶えた。孔子の六世の祖の孔父嘉が華督に殺され、その子孫が魯に奔って、宋では滅んだことになる（集解）。○弗父何 孔父嘉の高祖父である。宋の湣公の太子であったが、父の死後、湣公の弟の煬（ひ）公に譲って（殷代は兄弟相統制、宋は殷の啓の封地）位につかない。弗父何の弟の鮒（ふ）祀が煬公を弑して、兄を立てようとしたが弗父何は受けない。鮒祀はやむなく自立して厲公となった。○正考父 弗父何の曾孫である。○三命 一命で士、再命で大夫、三命で郷となった（考証）。○茲 滋と同じ。いよいよ。○鼎銘 正考父の廟に在る鼎に刻りつけた文。○偻 かがむ。脊をまげる。○偻 偻よりも低くかがみまげる。○俯 首を垂れ、更に低く脊をまげて、恭敬の状態になる。○饘 濃いかゆ。○粥 水でゆるくしたかゆ。○餽口 口に餽する。粗食で貧しく暮らす意。○当世 その時世で人の上に立つこと。榮達する。○達者 理に通曉した人。賢哲。論語に「達」について問答がある（顔淵）。○魯人 衍文か。○南宮敬叔 名は説（つ）。懿子の弟。論語の南宮适（憲問）と同人か。○季武子 魯の公族。三桓第一の権威者。

孔子貧且賤。及長嘗爲季氏史。料量平。嘗爲司職吏。而畜蕃息。由是爲司空。已而去魯斥乎齊。逐乎宋・衛。困於陳・蔡之間。於是反魯。孔子長九尺有六寸。

孔子こうし貧し且かつ賤けんし。及およ長ちやう嘗かつ爲な季き氏し史し。料れうりやう量たひら平へいか。嘗かつ爲な司し職しよく吏り。而しかう畜きう蕃はん息そくす。是これに由よりて司し空こうと爲なる。已すでに去さ魯ろを去さり、齊せいに斥しりぞけられ、宋そう・衛ゑいに逐おはれ、陳ちん・蔡さいの間あひだに困くるめらる。是こゝに於おいて魯ろに反かへる。孔子、

人皆謂之長人而異之。魯復善待。由是反魯。

長九尺有六寸。人、皆、之、を長人と謂ひて之を異とす。魯復た善く待つ。是に由りて魯に反る。

通釈 孔子は貧しく、身分が賤しかった。成長してから、かつて倉庫の出納係となったが、そのはかり方は公平であった。かつて、牛馬を飼育する役人になったが、その畜類はよく繁殖した。（その功績で水土の事を司る司空となった。そうこうしているうちに、魯を去り、齊で排斥され、宋・衛で追われ、陳・蔡の間で困難に遭い、また、魯に帰った。）孔子は身の丈が約七尺で、人々はみな長人と言って、珍しがった。（魯がまた善く待遇したので、魯に帰った。）

語釈 ○季氏史「委吏」の誤りだろう。趙岐曰く、「委吏は委積（儲蓄）を主（つかさど）る。倉庫の吏」と。崔述曰く、「委と季、吏と史。四字相似る。故に誤る」（考証参照）。委吏は倉庫の穀類の出納係。○料量平 はかりとますの計りかたが公平であった。○司職吏 儀牲にする六畜（馬・牛・羊・雞・犬・豕）を飼育する官。職は穢と同じで、畜類を繋ぐ杙（い）の。○司空 水土のことを司る役。○由是為司空 下文（十六節）の重出（考証）か。○已而去魯、於反魯。魯復善待。由是反魯 この二十九字は、崔適は、定公十四年の、「去魯」から「反魯」に至るまでの総結で、誤って重出したものという（考証）。「孔子長九尺、異之」を挾んで、孔子の周遊中の進退を叙述することは筋が通らない。この一節は、衍文が多い。○九尺有六寸 日本尺の七尺強。周制の一尺は約二十二・五センチメートル、日本尺の七寸三分ほど。

魯南宮敬叔言魯君曰、請與孔子適周。魯君與之一乘車、兩馬、一豎子。俱適周。問禮。蓋見老子云。辭去、而老子送之曰、吾聞、富貴者送人以財、仁人者送人以言。吾不能富貴、竊仁人之號、送子以言。曰、聰明深察而近於死者、

魯の南宮敬叔、魯君に言ひて曰く、「請ふ孔子と與に周に適かん」と。魯君、之に一乗車、兩馬、一豎子を與ふ。俱に周に適きて禮を問ふ。蓋し老子を見ると云ふ。辭し去るに、老子之を送りて曰く、「吾聞く、『富貴なる者は人を送るに財を以てし、仁人は人を送るに言を以てす』と。吾は富貴なること能はず。仁人の號を竊み、子を送るに言を以てせん。」曰く、「聰明深察なれども、死に近き者は、人を議するを好む者なり。博辯廣大

好_レ議_レ人者也。博辯廣大、危_レ其身者、發_レ人之惡者也。爲_レ人子者、母_レ以有己。爲_レ人臣者、母_レ以有己。

なれども、其の身を危くする者は、人の惡を發く者なり。人の子爲る者は、以て己を有すること母かれ。人の臣爲る者は、以て己を有すること母かれ」と。

通釈

魯の南宮敬叔が魯君に請うて言った。「どうか孔先生とともに周に行かせてください」と。魯の君は、一乗車と馬二頭と一從者とを与えた。敬叔と孔子は俱に周へ行つて礼を問ひ学んだ、恐らく老子に会つただろうといわれている。辞去するとき、老子は孔子を送り出して言った。「わしはこういうことを聞いている、『富貴な者は人を送るに財宝を以て餞別とし、仁人は人を送るに言葉を以てする』と。わしは富貴にはなれないので、仁人の名をかりて、そなたを送るに言葉をもつてしよう。聡明で深く事理を察していても、死ぬようなことになるのは、人を非議することを好むものです。博學能弁、見識が広くても、その身を危うくするものは、他人の惡をあばくものです。人の子たる者は、自我を持ててはいけない。人の臣たる者は、自分という小我を持ててはいけないものだ」と。

語釈

○南宮敬叔 既出（四節）。孟僖子の子、懿子の弟。左伝によると、昭公の十一年に生まれたから、孔子が周に行った時、敬叔は十四、五歳である。○孔子適周 孔子が当時の都である周の洛陽に學問のために旅行した。歳は三十四、五歳で、昭公二十四、五年ごろだろう。司馬貞は莊子の、「孔子年五十一南見老聃」（天運篇）を引いて孔子の問礼を五十一歳（索隱）とするが、この年は魯の定公九年で、孔子は中都の宰となっている。老子に問礼の暇はない。四節にある孟釐子の「病」「且死」と、そして釐子が卒するのと、懿子と敬叔が孔子に礼を問うた記事の誤りは、既に述べた通りである。左伝にも孔子問礼の明記がないので明白を欠くが、家語（觀周篇）その他を勘案して、三十五歳頃に孔子は周に往つたと考えたい（考証・家語・礼記など参照）。周は東周で、都は洛陽。西周が幽王に至って犬戎に滅ぼされ、平王が洛陽に遷都し、秦が滅ぼした（前三系）赧王までを東周という。周の礼樂文化の在る所。○蓋云 思うに、ということだ。未決の辞（考証）。○老子 李耳。老聃。史記卷六十三・老子列伝参照。老子道德經八十一章の言を遺したというが、実在については諸説紛々。○聡明深察 智が明らかで事理を深く察すること。○議 そしる。非議する。○博弁廣大 能弁で見識が広い。「大」は家語に「達」、一本に「遠」に作る（考証）。○有己 自分という小我を捨て切れないこと。

7 孔子自周反于魯、弟子稍益進焉。是時也、晉平公淫、六卿擅權、東伐諸侯。楚靈王兵彊、陵轢中國。齊大而近於魯。魯小弱、附於楚則晉怒、附於晉則楚來伐、不備於齊、齊師侵魯。魯昭公之二十年、而孔子蓋年三十矣。

孔子、周より魯に反り、弟子稍く益々進む。是の時や、晉の平公は淫にして、六卿、權を擅にし、東のかた諸侯を伐つ。楚の靈王は兵彊く、中國を陵轢す。齊は大にして魯に近し。魯は小弱なり、楚に附けば則ち晉怒り、晉に附けば則ち楚來り伐ち、齊に備へざれば、齊の師、魯を侵す。魯の昭公の二十年にして、孔子蓋し年三十なり。

通釈

孔子が周から魯に帰って來た。弟子が次第に多くなつた。この當時、晉の平公は酒色にふけり、六卿（范・中行・知・趙・魏・韓の六氏）が權勢をほしいままにし、東方の諸侯を伐つた。楚の靈王は兵力が強大で、中國をしのぎ侵した。齊は強大で、魯に近かつた。魯は弱小であつたから、楚につけば晉が怒り、晉につけば楚が攻めて來た。齊に備えなければ齊軍が魯を侵すという状態であつた。魯の昭公の二十年ごろで、孔子は思うに、三十（一）歳ぐらいたつた。

語釈

○晉平公淫云々 平公の十九年、齊の晏嬰に語る晉の叔嚮の言に、「晉は季世なり。公は賦を重くし、台池をつくり、政を恤へず、政は私門に在り云々」（晉世家七十四節）。そして、平公はその二十六年（前三三）に没した。史文の「孔子蓋年三十矣」と合わない。○楚靈王兵彊云々 楚の世家に「靈王三年、諸侯の兵を以て呉を伐ち、八年公子弃疾をして陳を滅ぼし、十年蔡侯を殺し、十一年徐を伐つ。國人は役に苦む云々」（楚世家十八節、二十一節）とある。後に、靈王が殺され、公子弃疾が立つて平王という（前三六）。孔子時に二十三、四歳。史の文と合わない。○陵轢 侵犯する。陵は凌と同じ、侵侮する。轢は欺き踏み荒らす。○齊師侵魯 齊の軍が魯國を攻め侵した。ただし、左伝などに當時この事実がない。

余説

梁玉繩は、「魯の昭公二十年、孔子年三十の時、晉は乃ち頃公、平公を去ること已に二世。楚は乃ち平王、靈王已に死して七年。皆誤れり」（志疑）という。中井積徳は、「晉楚齊の難、落著無し。蓋し錯簡か」（考証）というように、語釈に既説の如く不明の記事が多い。

8 齊景公與晏嬰來適魯。景公問孔子曰、

齊の景公、晏嬰と與に來りて魯に適く。景公、孔子に問ひて曰